

第7日

令和4年12月7日（水）

午前11時10分再開

○議長（半田雄三君） 休憩前に引き続き会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、10番中島秀樹議員の質問を許可します。10番中島秀樹議員。

（10番中島秀樹君登壇）

○10番（中島秀樹君） 議長から質問の許可を得ました10番議員中島秀樹でございます。私は、9月議会に発熱をいたしまして自宅待機となりました。そして一般質問を欠席しました。その時は本当に出たいなど。もちろん自宅待機というのは分かっているんですけども、行って質問したいなど強く思っていたんですが、人間というものは不思議なもので、今回、また一般質問の機会を得ますと、昨日の夜はいろいろ気が散って、よく眠れないといえますか、眠りが浅かったと思っております。9月にできなかった分と同じ質問を今回させていただきます。9月の分も含めて12月議会でもいい質問をしたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

（10番中島秀樹君降壇）

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） では、通告のとおり質問させていただきたいと思っておりますが、少し順番を変えまして、最初に、1番の良質な住環境を整えるをしまして、次に、4番の業務改革と新技術の活用は行われているのか、そして2番目の職員の人材育成が必要である。最後に、財政マネジメントは行われているか。この順番で質問をさせていただきたいと思っております。

私は、朝倉市が発展するために何をしたらいいのかということで質問を続けております。子育てであったりとか、交通の便をよくするとか、いろんな施策のことを質問、今までしてまいりましたけれども、今回は良質な住環境を整えるのが必要ではないかと考えまして、ハード面のことを質問させていただきたいと思っております。

私の自宅は車で5分ほどしますと、大刀洗町にすぐ行ける場所にあります。大刀洗町にはよく行くんですけども、本郷であったりとか、大堰の駅のところ辺りを行きますと、ああ、家がたくさん建ったなと気づかされます。大刀洗町は人口が横ばいであるというような、少し増えているというような、そういった新聞記事も読んだ記憶があります。朝倉市も大刀洗町を見習って人口が増えたりしたらいいなと感じております。

そういった中で、朝倉市の中で新築住宅が多い地区はどこなんだろうというようなことを考えております。朝倉市は広うございます。議論する上で、ある程度場所を絞らないと議論にならないのかと思いますので、お尋ねいたします。

朝倉市で新築住宅が多い地区というのは、どこになりますでしょうか。

○議長（半田雄三君） 都市建設部長。

○都市建設部長（山南哲也君） お答えいたします。

市内全体の建築住宅件数につきましては、令和元年度から令和3年度の3年間では642軒というふうになってございます。

新築件数の多いエリアとしましては、立石地区がこのうち229軒で全体の36%、次に甘木地区が91件で全体の14%というふうになっておりまして、甘木、立石地区で全体の50%を占めてございます。

なぜ立石地区に集中して新築住宅等が増加しているのか一概には言えませんが、立石地区は比較的市街地に近く、都市開発等によりましてまとまった土地が動いているのではないかと推測をいたしておるところであります。以上です。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） 今少しお話がありましたけれども、それでは、立石、甘木、朝倉市の中心地といえますか、一番商業的に栄えているところだと思うんですけども、ここに新築する魅力、それと、家を建てるとしたら一番物件が動いているというところは甘木、立石地区になると思うんですが、市外の方が仮に移住とか定住をしてくださると考えた場合に、朝倉市の立石、甘木地区に新築する魅力は何なんだろうかと考えるのですが、それはどういったものだと考えられますでしょうか。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（平田龍次君） 個人的な見解ではございますが、福岡都市圏よりも地価が安いこととか福岡都市圏や久留米市近郊に通勤が可能なこと、また、豊かな自然が近くにあること、また、市内在住者であれば、親に子どもを見てもらえることや親の面倒を見ることができること、相続などにより土地の購入をしなくてよいことなどが考えられると思います。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） まず、地価が安いということ、それから自然が豊かであるということ、それと同じくか近居によって子育てであったりとか、親の支援、それから親の面倒を見たりすることができるということなどの説明がありましたけど、私もそのとおりではないかと思っております。

そういった中で朝倉市は、私はたくさん朝倉市外から人が移住していただきまして定住してもらった方がいいと考えるのですが、朝倉市の住環境の質を上げるということは大事なことはないか。朝倉市が選ばれるためには、質のいい住環境をつくる必要があると考えます。

自然が豊かなほど住宅価格が高くなるという傾向があるそうです。豊かな自然が住民の生活を高めて、健康と精神的な安定を保ち、さらには、人々の暮らしの満足度を高めることも考えられます。

朝倉市の住宅の質を上げるためには、あと一步、朝倉市の住宅の質を上げて、朝倉市はいいところだなと、定住してみようと思うためにどんな政策ができると思いますでしょうか。お尋ねします。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（平田龍次君） 第2次朝倉市総合計画では、基本目標の6、快適で住みよい都市基盤の充実の中で6つの施策があり、施策番号19を住環境の整備としております。

その施策を実現していくために3つの基本事業、1つが移住・定住の促進、2つが公営住宅の整備、3つが公園整備・管理の充実を設定しております。

また、施策番号21と22では、上下水道の整備としており、特に甘木、立石地区については、その整備はかなり進んできていると感じております。

このような住環境をバランスよく整備していくことが大事ではないかと考えております。

また、新型コロナウイルスの影響によりテレワークや余暇の過ごし方などが取りざたされることが多くなってきております。そのような中、ウィズコロナに対応できるような住環境整備が新たに必要になってくるのではないかと思います。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） これからは人口減少社会になります。不動産市場が売り手、物件よりも買い手が多い時代になるのではないかと考えております。人が少ないですので、人が物件を選ぶような時代になると思っております。そういった不動産市場で価値を維持するためには、量ではなくて質にこだわったまちがいいと私は考えます。

朝倉市の一つの大きな魅力というのは、福岡都市圏に比べれば価格が安いというところは大きな魅力なんですけれども、単に田舎で価格が安いとか、買い手がなくて価格が安いとかではなくて、安いけれども魅力があると、非常にコスパがいいというようなそういった土地になる必要があると考えております。

その中で、私は、特に自然を生かした、そういった町並みが朝倉市には実現することができるのではないかと。自然が豊かな住環境というのが、私は朝倉市の大きな武器になるというふうに考えます。自然豊かな都市は価値を高めて、人々の健康の増進の効果があるのではないかとこのように考えます。

ただ、私、時々、ランニングをして、本当は今、明るい時間にランニングがしたいんですけども、夜ランニングをすることがありまして、私の自宅から甘木の町なかのほうに走っていきますと、あまり主要な幹線道路でも人が歩いていないなというのが実感としてあります。何でこんなに歩いていないんだろうというような気がしています。これは、私の自宅からは田主丸線といいまして、三福町の交差点までの道なんです。ここはほとんど人が歩いていません。

ただ一方、ピーポートから高速のインターのところ、あの通りは、結構、夜も人が歩いてます。環境を整えれば、私は人が出て歩くんじゃないかというふうに考えます。人は

歩けば健康の増進が進み、人々の交流が活発化するのではないかと、そういう歩きやすいまち、歩きたくなるまちに朝倉市はなるべきではないかと思っております。朝倉市は歩きたくなるまちでしょうか。歩きたくなるまちにするためには、今言った6つの施策がありましたけれども、どういったのが大事だというふうに考えますでしょうか。お尋ねします。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（平田龍次君） 自然を生かしたまちづくりという意味合いでお答えをさせていただきますと思います。

一つの例ですけれども、フレアス甘木横の甘木中央公園、甘木北公園は、市街地の再整備後、地元の方々の協力もあり、緑豊かな子どもや若者が集まる憩いの公園となっていると思います。そのような公園を増やし、緑多きまちづくりを進めてはという御提案だと思っております。今後のまちづくりを進めていく中では一つの考えであろうと思われま。市街地でそれを実施するとなると多額の予算が必要となりますので、現時点ではその計画は持ち合わせておりませんが、そういった考え方もあるのかなというふうに理解しております。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） 今、甘木中央公園が例として出ましたけれども、私も甘木中央公園を見ましたらば、子どもがたくさん遊んでいて、今イルミネーションでライトアップとかされていて、非常にいい公園だなと、私もちょっと休んでコーヒーでも飲みたいなと思っております。こういった甘木中央公園といういい例がありますので、これを生かしてもっと甘木中央公園みたいな、今、甘木北公園も出ましたけれども、こういった公園を増やして朝倉市の住環境を整えて、朝倉市の魅力を高めていくというのが私は大事じゃないかと思っております。

物事はやはり一つの核になるといいますか、分かりやすい、シンボリックな存在というのが必要だと思います。もちろん朝倉市、私も甘木、立石地区には住んでおりませんが、もちろん私の地区もいいところですが、でも、分かりやすいモデルといえますか、一番、今人気のある甘木、立石地区の住環境の質が上がれば、定住者、それから移住者の方にも分かりやすいというインセンティブになって、朝倉市の移住者が増えるのではないかというふうに考えますので、どうぞ、公園の整備というのをさせていただきたいと思っております。

それから、今度、大きな流れとしまして、これから二、三年後とか四、五年後を考えましたらば、新庁舎ができて、町並みが変わっていくと思っております。

それから、これはまだすぐというわけにはいきませんが、甘鉄駅の周辺の整備とかありまして、甘木のまちがもっと変わっていくと思っております。

こういった中で、甘木の町なかは、確かに新築の住宅は増えていますが、昔に比

べたら人通りが少なくなったなど、寂しくなったなど思っております。こういったスポンジ化といいますか、まちがところどころ人がいなくなるような状況、こういったものは新庁舎ができたりとか、甘木周辺、甘鉄駅周辺を整備することによって変わっていくというふうにお考えでしょうか。また、どういったプランをお持ちでしょうか。お尋ねします。

○議長（半田雄三君） 都市建設部長。

○都市建設部長（山南哲也君） 都市計画の担当部署のほうから御回答させていただきます。

これにつきましては、新プラン21計画におきまして整備をしました甘木中心市街地エリアの空家、それから空き店舗等の低未利用地について、計画中の新市庁舎の完成によりまして、庁舎周辺に企業、店舗等が参入することが期待されまして、新市庁舎周辺での拠点化が進み、魅力が高まっていくものというふうに考えております。

国道322号と甘木駅周辺の整備によりまして、甘木駅周辺も拠点化が進み、新市庁舎周辺とを結ぶ街路のポテンシャルも高まりまして、沿道ににぎわいが生まれます。このような新庁舎と甘木駅周辺を拠点としたまちづくりの波及効果によりまして、中心市街地エリアの低未利用地へも外部よりの店舗等の参入、これがあることで活性化が図られるものというふうに考えております。以上です。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） 拠点化という言葉が出ましたけれども、店舗とかができて、そこににぎわいの核となるようなそういった施設ができるんではないかと思えます。そうすると、そこに人が集まってきて、にぎわいのあるまちができるんではないかと思えますので、是非ともそれが実現するようになったらいいと思えます。

私は人が出歩いて、先ほども言いましたけれども、人がたくさん歩くとそれで交流が生まれるというふうに思いますので、人が集まる拠点というのをつくっていくのが大事なかなと思います。

そういった中で、先に申し上げればよかったんですが、甘木公園、丸山公園、こちら夜、私、行くことがあるんですけども、ちょっと暗いかなと。夜公園の中を歩いている人があんまりいないのかなと。昼間は物すごくいい公園なんですけど、昼間のよさが夜にも生かせないかなとっておるんです。もうちょっと照明施設辺りが多くなると、魅力ある県下有数の公園になるんではないかというふうに考えているんですが、甘木公園をもっと魅力あるものにできませんでしょうか。お尋ねします。

○議長（半田雄三君） 都市建設部長。

○都市建設部長（山南哲也君） 甘木公園の整備計画についてお話をさせていただきますが、甘木公園内の施設整備につきましては、本年度老朽化した外灯、それから健康遊具、それからブランコの更新を予定をしております。現在、甘木公園内には97基の外灯設置がなされておりまして、支柱等が老朽化した外灯より随時更新をしている状況であります。

また、園路沿いに設置しております18基の健康遊具のうち10基、それからブランコ1基を更新することにしておる現状でございます。以上です。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） いろいろ健康遊具であったりとか更新の計画はあるということですので、ブラッシュアップするというふうに思います。

私は、先ほど言いましたように、もう少し明るくなって、夜、もう少し人が集まるようなところにしたらいいかないかと思えます。健康のことを考えれば夜はおとなしく寝ているほうがいいのかもかもしれませんけれども、やはりいろんな仕事帰りの人とかそういった方が公園で汗を流して健康増進に努めるとか、そういった環境も必要ではないかなと。そういった甘木の、甘木らしい夜の楽しみ方といったら変なんですけど、そういった散歩をするとか、自然豊かなところであるとか、そういったことができたらいいかというふうに考えますので、どうぞ、照明のほうも御検討いただけますよう、お願いいたします。

この質問は終わりたいと思います。朝倉市の新築住宅が多いところは、甘木、立石地区であると。ここが約半分を占めていて、ここが魅力的な自然豊かな住環境になれば、朝倉市の牽引のエンジンとなって、他地区からの移住・定住者が増えるんじゃないかという考え方です。ぜひとも良質な住環境を整えていただきますよう、お願いいたします。

では、次の質問に移ります。

次は、業務改革と新技術の活用について質問をさせていただきます。

私、今、監査委員ということで籍を置かせていただいております、市役所の皆様の各担当課とお話をさせていただくことが多くなりました。そういった中で、私は、朝倉市が厳しい自治体間競争を勝ち抜いていく中でこれは大事だなと思う、気づかされることがありました。それは、業務改革が必要ではないかと考えております。

2015年の総務大臣から出された行政サービス改革の推進に関する留意事項についての通知というのがございます。これの中で、自治体内部の減量改革から人口減少社会到来に備えての民間活力の活用であったり、行政サービスのアウトソーシングが中心となった、こういった行政サービスの改革をなさいたいというふうに出しております。

また、2019年6月の骨太の方針で、人口減少に対応するために地方自治体の業務改革と新技術の徹底活用を通じた住民視点に立った利便性の高い次世代型行政サービスへの転換を積極的に推進しなさいと出ております。

市役所の職員の皆様は大変忙しいです。いろんな業務が複雑になって、住民のニーズも多様化しております。そういった中で、そして職員というのは、どちらかというと減少傾向である。そういった中でたくさんの業務を抱えていらっしゃると思いますので、その限られた時間を有効に使うためにはある程度機械化をして、業務の負担を減らして、問題解決であったりとか、住民とのコミュニケーションであったりとか、そういった部分にたくさん時間を生み出すようにしなければ、これからの厳しい自治体間の競争に朝倉市は勝ち残って

いけないのではないかと考えております。この議論をするに当たりまして、ヒト、モノ、カネという、この枠組みでものを考えていきたいと思えます。

私は、先ほども言いましたように、職員の能力を100%出してもらうために、持っている能力をただそのまま出してもらうために業務改革をして、ある程度の余裕を持たせるべきだ。そのためには、新しい技術を使って機械化であったりとか、DXをしていかないといけないというふうに考えておりますが。

まず、お尋ねします。

そういったことを、DX、デジタルトランスフォーメーションといいますけれども、これをするためには、ある程度知識がある人がいないと私はできないと思っているんですね。DX、デジタルトランスフォーメーションの、例えば、例でいきますと、皆様がよく行くコンビニ、昔は店員さんにお金払って、1,000円出したら、200円のものを買ったら800円のお釣りをもらっていましたが、今は機械に入れていると思うんです。自動精算レジですね。あれコロナがあって、対面の感染防止とかそういったのを防ぐために、ああいった形の導入が進んだと思うんですけれども、あれをすることで、店員さんの仕事というのは大きく改善して時間的に余裕ができたと思うんですよ。レジを閉めたりとか、そういったのも多分少なくなっていて、間違いも少なくなっているはずですよ。

DXというのは、その業務が単純に機械化されるということではなくて非常に楽になると、根本的に変わるというのがDXなんですね。そういったDXをするためには人が私はいらっしゃると思うんです。まずは、やはりそういった専門的な知識、そういった人材が必要と思えますが、市役所にはそういった人材というのがいらっしゃるのでしょうか。お尋ねします。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（平田龍次君） デジタル化を進めていく上で専門的な知識を持った人材、職員がいるのかという御質問であろうと思えます。

I T部門の職員に対し、いかに人材を確保、育成するか、同様の悩みを抱えている自治体は少なくないように思われます。

I T部門の職員に求められる能力としては、専門的知識を持ち、市役所の業務についても一定理解の上、各担当部署との調整を図ることができ、そして企業などに対する交渉力などが必要になると考えております。

市の現状としましては、一般事務職として採用された職員が人事異動で担当として配属されても、専門的知識を身につけるのに時間を要している状況であり、さらにデジタル化を進めるとなれば、十分な人員、人材の確保ができているとは言い切れない状況にあります。

今後、国に歩調を合わせて進めていくことが重要であるため、外部からの人材活用などについても調査研究を進めていきたいというふうに考えております。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） 今、民間でもIT人材というのは争奪戦が始まっております。どこの会社もIT化して、DXをやって業務を効率化して、時間とか資源とかを余裕を持たせて競争に勝ち抜きたいとしていると思います。私は自治体も同じことが言えると思います。必ずIT人材をたくさんそろえて、そして、マイナンバーカードとかを推進していますよね。必ずそういった新技術の活用というのは、この行政の世界にも来ますので、どうせやらないといけないのであれば、早く手をつけたところが私は勝ちだと思います。朝倉市は、早くそれにかじを切ってやらないといけないと思っています。でも、その一方で人材がないということがあります。

私、お尋ねします。

まず、単純に民間でそういった、NECとか富士通とかそういうIT会社といますか、そういう通信機器であったりとかそういう会社の詳しい人を連れてきて、そこで市役所で働いてもらってITのほうの改革をしてもらおうと。これでは駄目なんですか。お尋ねします。

○議長（半田雄三君） 総合政策課長。

○総合政策課長（佐々木哲治君） 人にもよりますが、駄目ではないと思います。ただ、他自治体の事例を聞きますと、やはりそういうシステム関係で入ってきた方が、実際、役所に入ってしまうと、事務的なものとのマッチングの中でちょっと自分の思っていたら違った理想と違って、最終的には辞められるというお話をよく聞くことがございます。

いずれにしても、これを進めるに当たりましては、そういう知識の部分と役所の事務的な部分、これをマッチングさせることが非常に難しい、また肝要だと思っております。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） 外部から、例えば、システムにお詳しい人とかを連れてきても、なかなかマッチングといますか、朝倉市独自の考え方であったりとか、業務の歴史とか、そういったものがすぐには吸収できないというふうには私は取ったんですけども、それが難しいのであれば、早く朝倉市の職員の中からそういった人材の育成を始めないと、それなりにシステムの知識、ITの知識を身につけるのは時間がかかると思います。何度も言いますが、早くスタートした者が勝ちです。早くやるべきだと思うんですが、そういったヒト、モノ、カネのヒトの部分、そういった人材の育成、生え抜きを育てていくという、そういったお考えとか仕組みはありますか。お尋ねします。

○議長（半田雄三君） 総合政策課長。

○総合政策課長（佐々木哲治君） 人事の件に関わる部分については、私が非常にお答えにくい部分でございますけれども、現在は、実は今年からIT担当のほうに職員を1名増員していただいております。そういった形で今、担当、係内でのそういう研修は進んでお



るんですが、やはりこの研修にも時間がかかっておるといったところで今、進めておるところでございます。

議員言われますような外部からの人材育成ということについても今、研究を重ねておりまして、次年度に向けて今、検討を進めているところでございます。以上でございます。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） そしたら、次に、ヒト、モノ、カネのモノの部分、もちろん、職員に1人1台パソコンがあるとか、そういった環境が一番いんでしょうけれども、ある程度の環境が揃っていないといけないと思うんですが、そういったDXをするような環境の部分というのは、揃っていますでしょうか。お尋ねします。

○議長（半田雄三君） 総合政策課長。

○総合政策課長（佐々木哲治君） 先ほど言われましたヒト、モノ、カネのモノの部分だと思います。

この部分につきましては、一定整備は終わって、そういった部分についての問題はないかと承知しております。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） モノの部分については、ある程度揃っているということですので、そういった新技術の活用ができているのかなと私は思っているんですが、例えば、RPAといまして、機械がいろんな、プログラムをしたら機械がそのとおりやってくれて、事務が効率化するというのがよくあるんですね。

この前、私たち朝倉市で議会、議会で議会報告会をしましたけれども、アンケートを取らせていただきまして、この集計をさせていただきました。これはアンケートが、例えば、20枚とか30枚ぐらいたと人の手でできると思うんですが、参加者が物すごく多くて、例えば、アンケートが500枚集まりましたというようなうれしい悲鳴が上がった場合、これを手作業で集計していくというのは大変だと思うんですね。こういったときにそのRPAとかが得意な部分だと思うんです。集計してくれて、グラフを作ってくれて、プリントアウトまでしてくれるというのがRPAでできると思うんですが。例えば、朝倉市でそういったRPAとかそういったのを導入をしている例とかがありましたらば、教えていただきたいと思います。そういったものがありますでしょうか。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（平田龍次君） AI等の活用、RPAの活用という意味合いで、令和2年度の特別定額給付金交付事務において導入した結果、職員がシステムに手作業で入力する作業の一部について、約520時間分の作業が短縮できたという例とか、令和3年度に固定資産の償却資産申告処理事務において導入した結果、職員の確認作業が約300時間分短縮できたということ。また、今年度は会議等の内容を録音した音声データをAIが組み込まれた文字起こしシステムを実証事業として取り組んでおります。これは、例えば、1時間の

会議に対し、数時間要していた文字起こし作業を2時間短縮することができております。本年6月までの取組結果、全庁で80時間の時間短縮を図ることができております。

また、このほか窓口部門中心のヒアリングや打合せにより対象業務を洗い出し、AIやRPAを利用できるか検証作業を進めているところでございます。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） 朝倉市にもそういったものがあるんだなというのが改めて分かりました。多分、私が今、質問しているのも、文字起こしというのは人が聞いてワープロで打つんではなくて、機械が文字として起こしてくれているんだろうなと思います。

私は、福岡県内でAIとかRPAがやっているような業務がどこかないかなと思いましたが、糸島市がAIによる国保レセプト点検の業務支援、点検業務のコストを削減したりとか、それから点検後の効果、向上が期待されるというようなのがありました。それとか宗像市、宗像市は農耕地の賃貸借権の設定状況や利用状況について、農地情報公開システムのデータ入力をRPAで実施しているというのがありました。さすが、糸島市とか宗像市は進んでいるなと思います。

こういったものを私はどんどん取り入れて業務を効率化して、先ほども言いますように、相談業務であったりとか、市民とのコミュニケーションとかを取って、朝倉市が攻めの部分に転ずるべきだというふうに考えております。

そういった中で、ヒト、モノ、カネの部分、今度は、お金がやはりないと機械ものでもありますし、専門家を呼んだりするのもお金がかかるでしょうから、お金がないと、予算がないとできないと思うんですが、この新技術の導入ということで、お金の部分につきましては予算の確保はできていますでしょうか。また、これから予算を確保していくおつもりはありますでしょうか。お尋ねします。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（平田龍次君） この分野の技術はまさに日進月歩で進んでおり、時期に応じた最適なものを取り入れる必要があると考えます。今後の調査研究などを早く取りかかっていくべきと考えますが、どのようなシステムを取り入れるか、予算や職員体制をどのようにやっていくのか、併せて計画的に考えていきたいというふうに考えております。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） 繰り返しになりますけれども、こういったAIの活用であったりとか、新技術の活用というのは必ず自治体で競争が始まって、当たり前になる世界が来ます。こういった中で早く手をつけたところが私は勝ちで、朝倉市はその分で抜きんでいないといけないと思っています。

ある意味、内部的な内向きな話ですけれども、それが守りを固めることによって攻めに転じることができるというふうに思っています。非常に大事な部分だと思っています。朝倉市の活性化をしていく、それから発展をしていくためにぜひとも避けて通れない部分だ

というふうに考えております。

市長、この私の主張、私は絶対必要で、早く手をつけてやるべきだというふうに考えておりますが、市長のお考えをお尋ねします。

○議長（半田雄三君） 市長。

○市長（林 裕二君） DXの時代は到来をもう既にしてしています。そして、これは民間企業のみならず市民生活にも浸透し始めています。コンビニ、いろんな公文書の取得等がもう望まれているというのが一つだろうと思います。行政にあっても、DXの対応をしっかりやっていくということについては、もちろん国の政策もございます。こういったことに後れを取ることなく、朝倉市の行政の推進ということについては、積極的に今、準備をしておりますので、具体的に予算も含めて、人材確保も含めてやっていくということで考えておりますので、よろしくお願ひします。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） この件につきまして、今日、この議場の中でいろいろ議論を交わさせていただいた中で、先ほど私、ヒト、モノ、カネと言いましたけれども、モノの部分はある程度揃っているということでしたので、やはりヒトの部分なのかなと、ここが一番難しくて悩ましい部分だと思っておりますので、これ大変だと思っておりますけれども、朝倉市の職員の方でお詳しい方を私、何人か知っておりますけど、こういう方だけでは足りないのかなと思っておりますので、是非ともこの部分に早く手をつけていただけますようお願いしまして、次の質問に移らせていただきます。

次は、人材のことについて質問をします。

AI、今私が言いましたように、AIの先端技術を活用した利便性の高い行政サービスへの移行が今、起こっております。その変化に、当然、対応できる人材の育成が必要になってくると思います。行政サービスが変われば、それに対する職員に求められる能力も変わってくるのではないかと思います。ですから、環境が変わるから職員のスタイルも変わるといいますか、求められる能力とか、考え方も変わってきますよという話なんです。

昔は、公務員の皆さんのイメージ、私の勝手なイメージなんですが、法令を遵守して、黙々と仕事をして、そういった方が私、公務委員のイメージなんです。真面目で堅くて黙々と仕事、事務をてきぱきとこなす。こういったのが公務員のあるべき姿というふうに考えているんですが、今からはそれでは駄目ではないかと思ひます。新しい朝倉市で求められる職員のあるべき姿というのは明文化されているんでしょう。そういった姿というのは決められていますでしょうか。お尋ねします。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（平田龍次君） 人材育成基本方針で次の5つの職員像を定めております。

1つ目が、高い倫理観・使命感・情熱を持ち、チームワークのとれる職員。

2つ目に、積極果敢に挑戦し、未来を切り開く職員。

3つ目に、市民ニーズに敏感に反応しうる職員。

4つ目に、高いコスト意識と経営感覚を備えた職員。

5つ目に、自己啓発に強い意欲を持ち、仕事に積極的に取り組む職員という姿でございます。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） 5つ出まして、すいません、メモが間に合わなかったんですけど、分かりました。

私もこれからはクリエイティブな発想ができたりとか、非常に世の中多様化してますので、変化に柔軟に対応する応用力であったりとか、それからやり遂げようとする熱意であったりとか、それから、さっき経営感覚とかいう言葉が出ましたけど、行政を自分が経営するんだというようなプロ意識、それから知らないことがたくさん出てきますので、新しいことにトライをするチャレンジ精神、それから何回も言いますが、今、世の中、非常に複雑化してまして、住民のニーズが多様化しています。そういったたくさんのニーズの中からこれが必要だというような政策を抽出していく、選び取るコミュニケーション能力とかも必要になってくるのではないかと私なりに考えています。そういった中で、あるべき職員像というのを5つ挙げていただきましたけれども、あるべき、朝倉市の職員としてあるべき職員像はこうですよというようなのが5つ挙げられているのであれば、人材マネジメントの考え方でいくと、人事制度とか、組織のデザイン、組織がこうあってほしいとか、組織の機能とか、そういったのがこの5つの今、部長が言った5つのあるべき職員が生まれるようなそういった仕組みになっていないと、ただの紙に書いたお題だけになってしまうと思うんですね。私は、ですから、そういったあるべき姿というのを決めていたら、このあるべき姿の職員が生まれるようなそういった仕組み、人事制度であったりとか、組織の機構であったりとか、そういったものが必要ではないかと考えます。

私なりにどういったことが必要かなというふうに考えまして、採用、育成、活用というこの3つの切り口で質問をさせていただきます。

まず1つが、採用の部分でいろんな多様なニーズが出ていますので、今までは新卒の人を採っていたのが多かったと思うのですが、例えば、トヨタ自動車とかは、中期的には2割から3割の中途採用を採ると。長期的にはこれを5割にするとかいうような方針が打ち出されています。市役所も私は、どこかよその企業とか、よその職場、それから研究所とかそういったところで働いて、そういった経験を持った人を採用して、多様なニーズに応える人材が必要だというふうに考えております。

採用の考え方として、社会人の経験者を採用する。この考え方は朝倉市は今どうなっていますでしょうか。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（平田龍次君） 朝倉市においても、民間企業等職務経験、社会人卒の採用を

行ってきております。これは複雑化する行政課題に対応するために幅広い経験や多角的な視点を持った人材、いわゆる即戦力の人材を期待し採用するものであります。過去3か年度の採用者数は、一般事務を11人、土木技術を7人、看護師を2人採用しております。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） 今、11人、7人、2人ということで全部で20人の方、経験者ということで採用になっていることを聞きました。これを私はもう少し増やしていったほうがいいのではないかと考えます。

次に、今までは成績のいい職員とか、成績のいい志願者とかが採用されていたというのが多かったと思うんですけども、多様なニーズとかを見極めるために、面接重視型の採用をすべきではないかと思えます。単純に、前は、多分、成績がよくないと一次審査が通らなくて、一次審査に通って初めて面接の試験を受けるとかそういった採用の流れだと思っていますが、面接重視型というのがこれから世の中の流れではないかと思っていますが、朝倉市の採用において、面接重視型を取り入れられていますでしょうか。お尋ねします。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（平田龍次君） 朝倉市の職員採用においても、人物を重視し、選考をしております。教養試験につきましては、従来は公務員試験に向けた準備を必要とした内容であったものから、民間企業志望者にも受験が可能となるよう、基礎的な知的能力を確認するものに変更し、実施しています。

また、面接試験においては、事前に受験者からエントリーシートの提出を受け、受験者の人柄や個性、自己アピールやその表現を確認するなどをし、面接では広い視野と豊かな人間性、感受性を備え、市役所にマッチした人材の採用に努めているところでございます。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） 業務をやっていく上で、ある程度の学力というのは必要だと思うんです。皆さんは能力の高い職員の方ばかりでしょうから、ある程度の基礎学力というのは必要だと思うんですけども、先ほど言いましたように、これからコミュニケーション能力とかが求められます。たくさんの方々の多様なニーズの中から何が本質なのかというようなそういうものを抽出することがこれから多くなってくると思いますので、面接の比重を増やすような採用のほうをしていただきますようお願いいたします。

時間が少なくなってまいりましたので先を急ぎます。

そしたら、次に、育成のほうなんですけれども、民間企業へ職員を派遣して、異文化に触れる、民間の企業文化に触れる。それとか、あと、先ほど私が出しましたように、糸島市とか宗像市とか必ず何か改革とかいうとよく名前が出てくる市です。そういったところに人材を派遣して人材を育成する。要するに、外の空気を吸ってこいということで吸ってきて、そして帰ってきて、朝倉市の職場に化学変化を起こしてもらい、そういったことが必要ではないかと思うんですが、そういったことというのは、なされていますでしょうか。

お尋ねします。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（平田龍次君） 人事交流や職員派遣ということで、外部からの新鮮な意見を取り入れることができるとともに、派遣された職員においては貴重な経験を得ることができるため、人事交流や職員派遣は有効な研修として位置づけております。

平成29年の豪雨災害発生以降、研修や職員派遣を縮小したり、一時取りやめをした経過もございますが、互いに職員を派遣する人事交流は、現在、福岡県1人と久留米市1人との間で実施しております。次年度以降については、派遣型ではありますが、福岡県の行財政支援課への実務研修に加え、他自治体との交流について交流する分野、期間、階層等について研究を行っていきたいというふうに考えております。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） いらっしゃるといって安心しましたけれども、人数がもう少し増えたらいいというのは、率直な感想です。職場が忙しくて、なかなか人員を割くというのは難しいというふうに思うんですけども、それを積極的にすることで新たな文化に触れて帰って来てくれたら、逆にそれがプラスとなって、結果的には業務が楽になるというようなことになると思いますので、是非とも積極的に進めてもらいますようお願いいたします。

最後に、職員のやる気といいますか、モチベーションを上げるための仕組みについてお尋ねします。

例えば、何か資格を取ったら、昇格とか昇級に有利になるとか、そういったものはありますでしょうか。やはり、こういった今、専門性とかが求められる時代ですので、そういった勉強するという学ぶという姿勢は大事だと思うんですけども、その部分で資格取得者へのメリットといいますか、インセンティブって何かありますでしょうか。お尋ねします。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（平田龍次君） 職員が業務に当たる上で必要な資格を取ったりということはございますが、そのことをもって特別な昇格とか、そういったことなどは行っておりません。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） いろんな資格を取って、それが直接的には業務には結びつかないかもしれませんが、そういった制度というのをご検討いただけないかなと思います。

次に、例えば、自分はこの業務がやりたいとかいう、俗に手上げ方式といいますか、この業務がやりたいとかいう、そういった積極性とかいう言葉があるべき姿の中に、部長の言葉にあったと思うんですが、そういった人事異動であったりとか、チャレンジ申告でプロジェクトチームに参加するとか、そういった仕組みはありますでしょうか。お尋ねし

ます。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（平田龍次君） 人事評価制度の中で、自己申告シートの作成提出を設けておりまして、人事異動に際しての参考資料としております。この申告シートにより資格の把握をしたり、職員の長所を伸ばす業務意欲を向上させるなど、適所適材を見極めながら職員を位置し、業務の育成につなげていくことが重要であり、組織としても成果を生み出せる可能性が高くなるものというふうに考えております。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） モチベーションは高く職員の皆さんに保ってもらうためには、それなりのやはり裏づけとなる仕組みが必要だと思いますので、是非ともチャレンジ制度と、チャレンジする、したくなる、またチャレンジしたいとかいうような方が積極的に業務に挑戦できるような、そういった仕組みというのを是非とも用意していただきたいというふうに思っております。

もう時間が少なくなってまいりました。民間企業や専門機関などで勤務実績を有する人材が職員に新たに加わることによって、職員集団に私は厚みが出るというふうに考えております。これまでの組織文化になかった異なった経験や考え方が組織に取り入れられて、朝倉市役所全体に新しい発想や行動を生み出すことが期待できると思いますので、是非ともあるべき職員像というのが決まっていたら、それが生まれるような、仕組み、制度を作っていただきますようお願いいたします。

残りにつきましては、また次回、質問させていただきます。

以上で私の質を終わります。ありがとうございました。

○議長（半田雄三君） 10番中島秀樹議員の質問を終わりました。

暫時休憩いたします。午後1時に再開いたします。

午後零時7分休憩